

だんだん人通りも多くなる。

僕は電車に飛び乗つて、萬世橋の手前で、切符を買はずに飛び降りた。

車掌が追つ驅けて来てドナル。

構はず僕は廣瀬中佐の銅像に向つて走つて行つた。

自動車が一臺向ふから来る。

「オイノ、俺を乗せて行け」

空車だ。小型のタクシーだつた。

僕は横脇から飛び乗つた。

脊後から運轉手の、洋服の首のカラーを掴んで、

「銀座へ行くんだ。オイやらないか、言ふ事を聞け」と喚いた。

運轉手はあはて、ビク／＼してゐたが、それでも交番の前へ車を止めて、何處かへ逃げて了つた。

二三分間ばかり僕は置いてきぼりを食つてゐた。